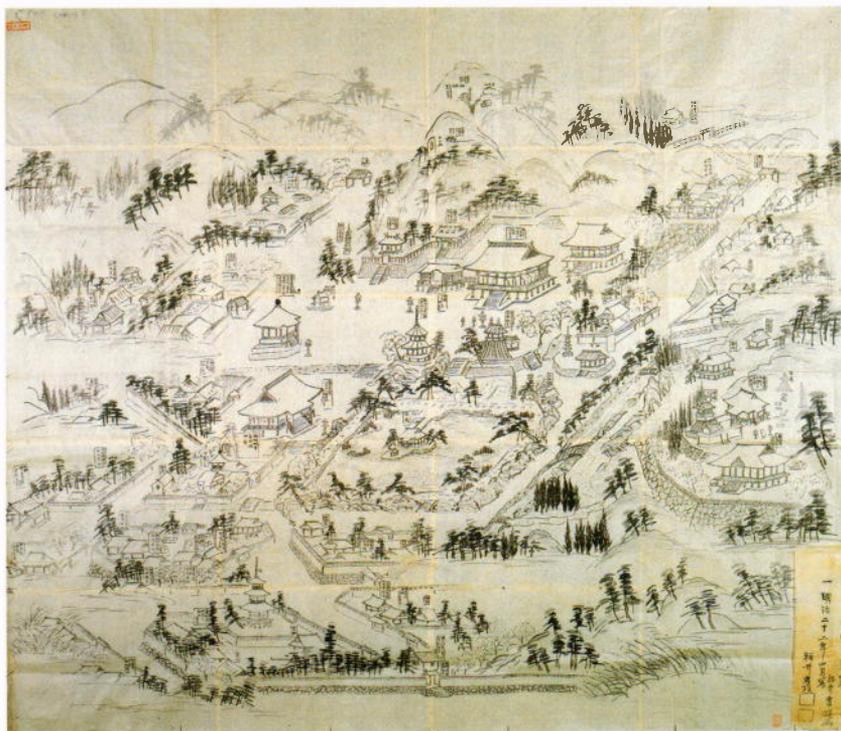


# やまとの名品 天理図書館



うちやまえいきゅうじのず  
内山永久寺之図

明治22年(1889)写  
縦1,500cm 横1,730cm

## 天理図書館 内山永久寺之図

かつて天理市杣之内町には、「西の日光」と呼ばれた内山永久寺という寺院があり文化的にも大きな役割をはたした。その寺院が今も存在すれば、今年、創建九百年を迎える。同寺は、杣之内にある天理図書館より東南に歩いて十分ほどの山の辺の道に沿う内山に属する。

永久寺は鳥羽天皇の勅願により、興福寺大乘院院主頼実が平安末期の永久二年（一一一四）に時の年号を寺号として創建した由緒ある真言系の修験寺であり、南北朝動乱の頃、後醍醐天皇も一時立ち寄られた。境内には真言堂、多宝塔、本堂などの主な伽藍が建立され、

そこには多くの仏像や絵画があった。ところが、明治新政府の「神仏判然令」による激しい「廃仏毀釈」によって、その佛すらたどれないほど破壊され、多くの僧が離散し、明治八年（一八七五）廃寺となった。

その中であって、鎮守拝殿は石上神宮に移築され、摂社出雲建雄神社拝殿（国宝）となる。その他秀れた美術品等が国内の寺や美術館に移り、一部はポストン美術館等、海外にまで流出している。

掲出の絵図は、近世文書の集書保井文庫に所蔵し、江戸期の姿を明治に書き写したもので、全容をうかがわせる貴重な史料



である。旧来の参道には西門があり、東の奥まった平地には阿弥陀如来を祀る本堂と、大日如来を祀る真言堂、釈迦・薬師・弥陀・弥勒を祀る多宝塔、観音堂、御影堂、塔頭など五十余りの建造物が配置されていた。

現在は、挿図の「本堂池（大亀池）」だけが残り、永久寺を偲ばせる建物は何も残っていない。

（天理図書館 加藤重光）